

主催・共催3団体の活動報告

エネルギー
戦略研究会
(E E E 会議)

エネルギー
問題に発言
する会

原子力学会
シニアネット連絡
会 (S N W)

2008.3.4.
SNW # 7 シンポジウム

報告: 金氏 顕
SNW 幹事

エネルギー戦略研究会 (EEE会議)のご紹介

1. 会の概要

1990年に創立(当初は財団法人・日本国際フォーラムの内部機関として)。その後独立して今日に至る。会長は最初から金子熊夫(元キャリア外交官、初代外務省原子力課長、元東海大学教授)。

2001年に研究活動の一環として「エネルギー環境Eメール会議」(EEE会議)を発足。電子メールを使って、**原子力を中心とするエネルギー問題、環境問題(とくに地球温暖化問題)、核軍縮・不拡散問題**などについて活発な情報・意見の交換と発信を行っている。

会員は全国に約**300名**。入会は原則的に自由。会員制度の詳細は<http://www.eecom.jp/>で。

2. 最近の主な活動

日常的にEメールで情報・意見の交換(1日平均7,8通)

講演・研究会(毎月2,3回。講師には各界のトップも)

政策提言活動(過去4年間で5回。最近は福田首相宛ての提言
「『美しい星50』と『エネルギー自立50』の両立を目指せ」

シンポジウム、国際会議等の開催(2003年には中曽根元首相、
ベーカー駐日大使らを基調講演者に400名の参加者)

地方との交流(最近では2006年に青森県六ヶ所村で

「六ヶ所エネルギーセミナー」を開催、約200名参加)

施設見学(最近では柏崎刈羽原発、もんじゅ・美浜原発、勿来ク
リーンコール研究施設など)

「エネルギー問題に発言する会」「原子力学会シニアネットワー
ク(SNW)」との共同企画

「エネルギー問題に発言する会」のご紹介

1. 会の概要

発足：2001年10月

主旨：わが国のエネルギーにとり、原子力の健全な推進が必要欠くべからざるものであるという認識を共有し、そのために**立場にとらわれない自由な発言**を社会にむけて発言していく。

会員：現在約**220名**。メーカー、電力、研究所、原子力関係諸企業・諸機関、大学、メディア等で活躍したOB主体。

2 . 活動内容

発信、入会案内はHP (<http://www.engy-sqr.com>)

会員の相互研鑽

(情報発信、重要問題についての座談会)

応
のコメント

メディア取材対
メディア報道へ

(良い報道、誤った報道の双方)

コメント

コメント募集への対応
との協調)

動 (SNWとの協調)

メディアへの意見寄稿
政府関係機関のパブリック
地方自治体のパブリックコ
政策提言対応 (E E E 会議
講演会、シンポジウム活
学生との対話活動 (SNW⁵

原子力学会シニアネットワーク連絡会 (SNW)のご紹介

設立：2006年5月に日本原子力学会の「シニアネットワーク連絡会」(略称**SNW**)として発足

会長：竹内哲夫(元原子力委員、元日本原燃社長)

会員：原子力関連企業(電力、メーカーなど)、研究機関、大学などのシニアを中心に**173名**(2008.2.現在)

理念：会員それぞれが培ってきた知見と経験を活かし、地球規模のエネルギー資源・環境問題に対する原子力の果すべき役割について真摯に考え、発言し、或いは提言を行い、**世代間の対話と様々な交流を通して、学術の発展と技術の伝承ならびに人材育成に協力し、真の理解者を広げることを目指します。**

活動、入会案内は<http://wwwsoc.nii.ac.jp/aesj/snw/index.html>

S N Wの活動方針と実績

「世代を超えた対話」

- 若者に夢と希望を与え次世代を担う気概を育む
- 技術伝承として文科省、経産省も注目
- 全国の原子力系大学、教育系大学の学生との対話を延べ18回、35校、611名の学生と234名のシニアで開催

「協力団体・協力会員とネットワークの構築」

- 学会以外の団体、協力者とネットを構築し活動を広く展開：東北原懇、関西原懇、中部原懇等

「講師派遣等」

- 全国各地で開催される講演会、原子力施設見学会等に講師として今年度だけで延べ50回派遣

「啓発活動」 公開シンポジウム開催 過去6回（年間4回）開催（3回東京、3回地方）

#1: 「石油を浪費しない社会の構築とシニアの役割」

2006.7.24 於) 東京工業大学百年記念会館

#2: 「オイルピーク時代にどう対応するか、その生活哲学と学生の夢支援、キャリアデザインを考える」

2006.9.27 於) 北海道大学

#3: 「岐路に立つエネルギーと地球環境—世代を超えて考える」

2007.1.31. 於) 学士会館

#4: 「オイルピーク時代にどう対応するか、生活哲学と学生のキャリアデザインを考える—その2—」

2007.3.29. 於) 名古屋大学

#5: 次ページに

#6: 「世代を越えて皆で語ろう - どうなる地球環境、エネルギーと我が国の将来」

2007.9.29. 於) 北九州国際会館

#5: 「エネルギー・地球温暖化問題に果たす原子力の役割、世界の潮流に我が国はどう立ち向かうべきか？」 2007.8.8. 於) 東大山上会館

EEE会議、エネルギー問題に発言する会と共催
エネルギー安全保障の中の原子力の重要性、
事業者・国・自治体・メディア・国民の五すくみ、
航空業界から見た原子力業界の問題などを議論
今後の活動、次回のテーマについて

- 「原子力広報の戦略的な進め方」
- 「マスコミ界との対話」
- 「原子力発電所におけるメディアとの関係」
- 「今後一般向けの活動も必要」などの意見



今回のシンポジウムへ

2007年10月 3団体共同政策提言 : 「美しい星50」を 実現する為のエネルギー安全保障戦略のあり方

長期エネルギー戦略を確立し、総理自ら原子力の重要性を国民に訴えられよ
「エネルギー及び地球温暖化対策担当大臣」を任命し、
「国家エネルギー環境戦略会議」を設置せよ



2050年に向けての提言

・CO₂発生量半減(美しい星50) ・エネルギー自給率: 16% 50%



具体的施策

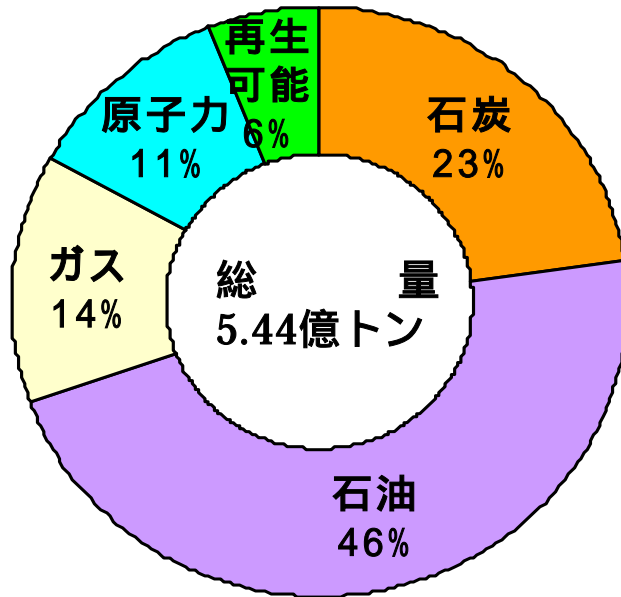
- ・省エネ15%、電化によるエネルギー効率向上10%
- ・石油・石炭・天然ガス使用量半減
- ・新エネルギー(風力、太陽光等)を5倍に、原子力発電を2.5倍に



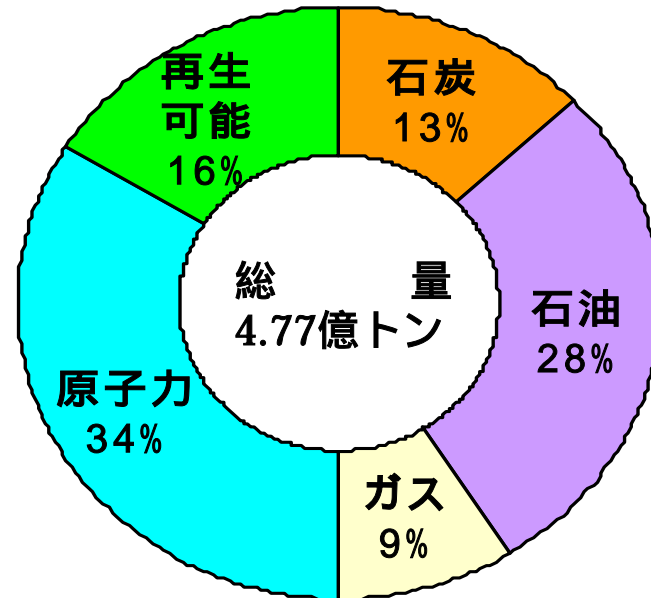
命題: 地球温暖化対策 + エネルギー自給率向上

2050年の目標

- ・CO₂発生量半減
- ・エネルギー自給率：50%



第1図 2004年一次エネルギー内訳



第2図 2050年一次エネルギー内訳

提言書(84名署名)、エネルギー戦略検討書をテキスト巻末に添付